

京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 薬剤疫学・臨床研究管理学

臨床疫学を主導し、また薬剤疫学を標榜する我が国唯一の講座である当教室（川上浩司教授）では、豊富な医療データベースを使用して、臨床研究の様々な領域の根幹として重要である臨床疫学、薬剤疫学研究を力強く実施しています。医療現場における各種の疑問（クリニカルクエスチョン）を研究可能なデザイン（リサーチクエスチョン）として臨床研究を実施し、医療における診断方法の評価、医薬品等による治療方法の効果や副作用に関するアウトカムリサーチ、医療の費用対効果を評価する経済研究（HTA）、医療や医薬品、医療機器の安全性や有効性評価のためのレギュラトリーサイエンスと幅広い領域をカバーしています。今後の医療、社会、産業、政策等を担うための新しい医学を志す大学院生や、若手研究者をお待ちしております。

様々な臨床系教室、病院、企業、自治体と連携したネットワーク（京都大学川上教室10周年記念式典にて）



33都府県の76自治体と連携 ライフコースデータの確立



母子、学校、介護のデータは医療の前後データとなるので、レセプト情報などの既存の医療系データとリンクして解析することで、それぞれ予防医療や医療全体で行われたことの評価に役立ちます。

指導教員陣容：教授（医師）、准教授（臨床疫学、小児科）

講師3名（生物統計、生化学）、助教5名（薬剤疫学、公衆衛生学、薬学、歯科学、政策科学）

これまでの所属教室員のバックグラウンド：小児科、循環器内科、呼吸器内科、

糖尿病内科、消化器内科、腎臓内科、腫瘍内科、消化器外科、麻酔科、耳鼻咽喉科、眼科、救急診療、歯科、薬剤師、看護師、製薬企業（出向含む）、新卒等

教室出身者のキャリアパス：教授4名（岡山大学、名古屋大学、京都大学、慶應義塾大学）

准教授2名（滋賀医科大学、同志社大学）、国立循環器病研究センター、PMDA、製薬企業等

使用している医療系データベースと構築している情報

電子カルテDB（450万人）、診療報酬請求レセプト情報（300万人）、DPC（1700万人）

調剤薬局情報統合（大手5社3500万処方箋相当）、母子保健情報（15万人）

学校健診情報（上図のうち現在45自治体）、介護入所時情報等

RESEARCH

OPEN ACCESS
Secondhand smoke and incidence of dental caries in deciduous teeth among children in Japan: population based retrospective cohort study

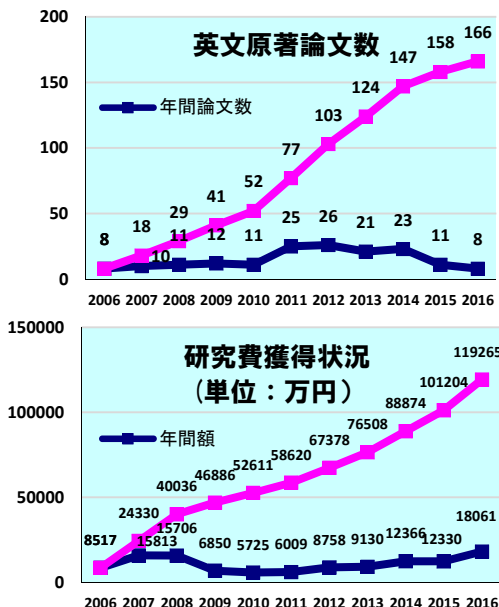
Shino Tanaka, Maki Shimizu, Hirohito Tokumasa, Kahori Seto, Sachiko Tanaka, Koji Kawakami

thebmj | BMJ 2015;351:h5397 | doi:10.1136/bmj.h5397

日本経済新聞 京都新聞 神戸新聞 毎日新聞

行政資料を用いた疫学研究は、英国BMJ誌に論文掲載され、2015年10月に新聞各誌やTVニュースにて紹介されました。

川上研設置2006年以降の研究業績（英文166編）および獲得研究費（11億9200万円）



医師の皆様

医師が臨床現場で抱いたクリニカルクエスチョンに基づいた臨床研究を実施しています。日本の医学は、基礎医学、病理学を基盤として発展を遂げてきました。大学院における学位授与も遺伝子や細胞、動物を相手とするものが中心でしたが、今後はそれだけで十分な時代ではありません。医療や社会福祉の向上のために、臨床現場における問題意識を研究として実施し、また先制医療へと発展させていくことこそが重要であり、私たちはそのための教育研究リソースを完備しています。臨床研究者養成コース（1年制）も開講しております。

薬剤師、製薬・医療機器業界やCRCの皆様

薬剤師のミッションはもはや古典的な調剤業務のみではありません。治療の根幹をなす薬剤についてエビデンスの源泉となる臨床データベースを整備・構築し、それらを用いた研究を通じて、薬剤の使用動向や費用対効果などについて把握し、薬剤の適正使用を推進していくことは、次世代の薬剤師にまさに求められることです。また、製薬企業などで開発や薬事、HTAに基づいた薬価にかかわる方や、臨床研究専門職（CRC）の方等の社会人学生の受け入れ実績も多数あり、学位取得による多様なキャリアアップを支援しています。

教室の詳細は<http://square.umin.ac.jp/kupe/>をご覧ください。